

見聽雜記

特
5
690



音
690
巻

ん



Red seal impression, likely a collector's or library's stamp, located at the top of the left page.

世見聽雜凡今門不事
一むうのぬん事あ
あやうとさう
夏いりたこのり
下は 蠟燭の志ん
不に 骨
ぬらぬらぬら鳥の月
取入

Red seal impression, likely a collector's or library's stamp, located at the bottom of the left page.

多岐の地味は...
あなご川...
と三冊...
河うんさ...
心成...
し

元治...
卯...
卯...

玉...


見聽
雜記

話縁起
第一

玉...
玉...

富士淺間宮 佳吉孝天皇即位五年近江國湖水
 初之港富士山其日二瀨之也清和天皇貞觀五年
 秋八月白衣ノ神女天降玉^此言^事起^延曆二十
 四年二巫二使宣^アリ^朕ハ^己淺間^大草^子屋^ナリ^上平城
 天皇大同元年二初^テ此^社ヲ^建國^府ノ^淺間^宮
 延喜年中二建^之宮^ノ神^安ニ^遷山^上ノ^社ヲ^本宮^ニ
 上^崇メ^有、^宮ヲ^新宮^トシ^テ也^其始^ハ三^嶋ノ^明神^也
 神代ノ^事也^ニ大山^祇神^ト号^ス後^何ル^モ所^由也^木花
 同^那岐^トソ^ト也^也

玉松山祐福寺小三尊縁起



白山三所縁起、此地十一面觀音聖觀音深
 陀弘^ク、^祐福^寺ヲ^代之^後、^融得^承宗^系
 上人^子人^多氣^の、^有、^白山^ノ、^南河^ノ、^入
 多^お申^分々^な、^あつ^り、^所ノ^二、^所ノ^邊、^ヲ、^也
 傳^の、^老、^女、^と、^あ、^こ、^と、^さ、^凡、^々、^と、^あ、^上、^人、^曰
 昔^ハ、^中、^女、^人、^結、^界、^の、^地、^ヲ、^也、^女、^行、^了、^矣、^子
 于^是、^于、^時、^老、^女、^若、^白、^神、^を、^見、^け、^り、^ま、^白、^山
 妙^理、^也、^記、^り、^上、^人、^と、^言、^ふ、^所、^也、^瑞、^也

~~右之支何之醫書出申候哉
 木嶺~~

覆^{シテ}卧^ス為^リ寤^ル多^ク悪^ク夢^ヲ

右之支何之醫書出申候哉

木嶺

了^ラ直^ニ心^ヲの^ハこと^ハ心^ノの^ハ心^ノの^ハ心^ノの^ハ心^ノ

心^ノの^ハ心^ノの^ハ心^ノの^ハ心^ノの^ハ心^ノ

奉持 一雄玄心居士靈位

勾當西澤撮部

心^ノの^ハ心^ノの^ハ心^ノの^ハ心^ノの^ハ心^ノ

こころしとていふはなるなりし人々の心を
かゝるよしとていふはなるなりし人々の心を
このまゝに天地のり然るは是とあるは
のまゝに天地のり然るは是とあるは
いふゆれと折ふあるはなりし人々の心
さうなるよしとていふはなるなりし人々の心
かゝるよしとていふはなるなりし人々の心
又のたれはよしとていふはなるなりし人々の心
かゝるよしとていふはなるなりし人々の心

よりの日かたなりし人々の心を
さうなるよしとていふはなるなりし人々の心
かゝるよしとていふはなるなりし人々の心
又のたれはよしとていふはなるなりし人々の心
かゝるよしとていふはなるなりし人々の心
さうなるよしとていふはなるなりし人々の心
かゝるよしとていふはなるなりし人々の心
又のたれはよしとていふはなるなりし人々の心
かゝるよしとていふはなるなりし人々の心

つらみちの家の下りて死
すまの柩のさうみなる人
すまのさうみなる人

元禄九年九月五日

一雄玄心のまじり成りし出く一徳の
傍を傍へさうみなる人挽歌の首を
解あめをさうみなる人厚徳
謝する所あり

たしやまのまじり成りし出く一徳の
傍を傍へさうみなる人挽歌の首を
解あめをさうみなる人厚徳
謝する所あり

真禪寺の僧惲余愛子有吟
感其志不能措和答之

捨身取義道何亡
玉碎瓦全慷慨長
夷甫情鍾床褥上
溫清只恨失黃香

松井時從一雄玄心靈神者予之舊古識也茲歲_{丙子}勤仕于東武罹于不虞之橫

變如結其纓而至_方勇悍之孽劫也任_十月之所具瞻有所思而且措今也二月廿有_二日為_七々忌題悼傷三篇以奉_皇呈興國山現住和尚凡右以請冥福轉身那_一句云爾

天然拜

其一

在時文武共難兼

况又蓋棺稱德稀

當義鐵肝毫髮輕
技明雙鑠節操巍
功蒙

君命兩朝忝

勇碎賊徒前後圍
真風山頭跳哭恨
遊魂百里以何歸

其二

是宜忍孰不宜忍
驚定計音吞氣腸
天且奪年思度亮
人方恨命感劉郎
七星空耀佩殘劍
百里徒知示訓章
傍眼更無招鬼術

おのゝりてはせらわさむらりしすすま
くまうこくもあざくらうりてとや
さす 智恵秀
りけうしてあきらけいなるをわかに
きを少くもがさうし佛のたう
世とくねなるのうけりて
たのめちものさうりて
おのまにちるるをうけ
さひげらあこころのま
ありしをみまにま
まあこころはしむて
くちりて注を

おののびりてはせらわさむらりしすすま
くまうこくもあざくらうりてとや
さす 智恵秀
りけうしてあきらけいなるをわかに
きを少くもがさうし佛のたう
世とくねなるのうけりて
たのめちものさうりて
おのまにちるるをうけ
さひげらあこころのま
ありしをみまにま
まあこころはしむて
くちりて注を

あつたゆかたのたすくまはあふ人のめがけり
まじりあつたわらへともいふ人のたすくまはあ
まじりあつたわらへともいふ人のたすくまはあ
まじりあつたわらへともいふ人のたすくまはあ

あつたゆかたのたすくまはあふ人のめがけり
まじりあつたわらへともいふ人のたすくまはあ
まじりあつたわらへともいふ人のたすくまはあ
まじりあつたわらへともいふ人のたすくまはあ

元禄十年 丑九月六日

富永姓悼奉之詞

虎ハをあり、毛を行しんで命と物とを人
あつたゆかたのたすくまはあふ人のめがけり
まじりあつたわらへともいふ人のたすくまはあ
まじりあつたわらへともいふ人のたすくまはあ

その多かりきりては奥の守れじとある
あなれどもさうし人の許へ嫁しむれば
ある所限りなきおのゆへに人を殺し出れ
て宮仕よりなりたり此氏にまゝ二十一年あり
丹ていともありなり人の親のふとあつたりん
及らりたりとありたりたりの子の女房志
まじりたりとありたりたりたりたりたり
ぬしとありたりとありたりたりたりたり
志有るはとありたりとありたりたりたり
春社とありたりとありたりたりたりたり

いも流して後二公既陽に降ぬ人金おとれし
ゆりたりとありたりとありたりたりたり
光景とありたりとありたりたりたりたり
後月とありたりとありたりたりたりたり
そとありたりとありたりとありたりたり
後ありたりとありたりとありたりたり
つ比よりなりとありたりとありたりたり
初急をまらとありたりとありたりたり
まじりたりとありたりとありたりたり
ちりたりとありたりとありたりたりたり
の一二ありたりとありたりとありたり

今存ありて事なきは
山々んと同八白の
納りたる地を
帝座を
西が
いん方
上上
て

永徳寺

定式

西を
末寺

一 佛
勤
務
奉
敬

号
致
擗
長
年

一 寺
用
心
得
假
能
初
不
可

致
所
門
外
白
衣
出
入
有
方
規
也

一昏之夜，黃昏... 德業之致，造
忘

一信持事... 勿備... 惟方同

高同... 德業之致

高同... 德業之致

之... 德業之致

一... 德業之致

可... 德業之致

有... 德業之致

建... 德業之致

之... 德業之致

貞... 龍

覺

一... 德業之致

一蹴鞠會令集

一絲竹音曲事

右雖為檀家之催當時諸事可
相懷之節也於寺內望可被致
卦啟之款其外去貞享四年春所
是置或法無以可被相守者也

元祿六

癸酉

曆六月日

龍室

覺

今度被仰出十一條之御定式

御役所之於七條委細被兼知諱意

可相守之其外派律不如法之行狀

等於看其石從世方急度遂穿鑿

其上之御役所口可申達者也

元祿七年五月

寺事

西光院

神三

陷中三

氏
神三

神五

年下 壮年人
女 下 書
老 年 人
媪 下 書

粉面

頭姓

氏

神五

氏下 平人
妻 婦人 下 書
有位 妻 婦人 下 書

頸考

故致仕大府卿法印人見氏知賢元德老先生 神五

七
上 考 氏 考 所 考

一馬
考 氏 考 所 考

但
氏 考 氏 考 所 考
氏 考 氏 考 所 考
氏 考 氏 考 所 考
氏 考 氏 考 所 考

道方... (vertical text)

一 為書... (vertical text)

江... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

下... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

下... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 役人... (vertical text)

一 皮履 一 三尺巾 一 三尺巾

一 扇 一 扇 一 扇

一 襪 一 襪

一 襪 一 襪

田 軍田入

一 乃 乃

一 襪 一 襪

一 襪 一 襪

一 襪 一 襪

存 存

送

一 少 少

少 少

一 少 少

少 少

一 括賣古流白

七拾八

百九文

一 山委好流白

丁三十九

百六文

一 法善乃流白

丁三十九

丁三十七

一 山委地流

丁三十九

丁三十九

一 法善地流

丁三十九

丁三十九

一 唯林好流白

百三十九

山委地流

一 山委好流白

丁三十九

百三十九

一 雲乃流

丁三十九

百三十九

電

一 白梅酒

百九千文

山崎屋中三文

一 梅酒

七千六文

丁九千文

一 白梅

百九千文

山崎屋中三文

一 白梅

百六千九百文

百六千九百文

之福一年、一年大小ヲ知奇

正三位四品六位、至迄七十、ゴトカ(六十)

又正四位下、スシキテ七十迄、小セリ九

三

大坂、新小、祇園、之里、祇園、
大坂、新小、祇園、之里、祇園、
大坂、新小、祇園、之里、祇園、

小坂、新小、祇園、之里、祇園、
小坂、新小、祇園、之里、祇園、

小坂、新小、祇園、之里、祇園、
小坂、新小、祇園、之里、祇園、

小坂、新小、祇園、之里、祇園、

又云、古部、本部、三日路、下、田

数万人

唐人陣場

都古、三里程

平安口、中

唐ノ道

立花宅前

合戦場

原

立花左近の里

三奉行之談合場

大谷刑部酒

石田部酒

増田右衛門

前野但馬守

小早川隆景

黒田甲斐守

北

南

山

山

松

山

少坂

心

都、松山、間、二、里、半、程

元良路ノ道

山

東

朝鮮都
内裡

心

歌書

國東西南北彼岸乾押堅良歌
之夕

北一代集卷頭之歌歲記等之事

佳吉社禮詠 牡丹華

定家卿枕蓆風之歌

見聽雜記

四

踏歌、竹節會、八人王三十九代天多帝ノ内より娘ハ、
 由乃、志多、大伴、宮也、山、所、鐘、是、大、高、姫、
 此、ヲ、
 子、ノ、
 角、
 角、
 天、
 子、
 年、
 維、
 維、
 維、

玄輝門院、法見院ノ母后也、洞院山階

大大臣実雄公、女也

延政門院、後嵯峨院ノ皇女也

こゝろの文字、いゝのほの文字、いゝのほの文字

くまのこゝろの文字、いゝのほの文字

假名をよみ、こゝろの文字、いゝのほの文字、
 山、所、鐘、是、大、高、姫、



幼りの昨えりうもきりなれおとく

明鏡は神はすまにわらふしほいそやうと

いかに木に名の敷居ひらう牛魚

ましらがり 桔梗也 秋らう此物にしろ白の

^{ヨニ} 醒草 ^{リヤト} びふたの也

えとに 世流也 直草 ^{ワスレ} けい

いれもがう 説得 ちんちん ^{ワスレ} けい

龍騰也 古今に ちんちん ^{ワスレ} けい

暮秋 ことしのたの也は美物也ちんちん ^{ワスレ} けい

定夜

水鶏 ^{ワスレ} けい

数頁高の松こまつのたにたにあはあはりりあまあまりり

詩学大成致信

幾回揮扇摩しほ難ま去き
続被薰烟即す使し除ぞ

六月後

八雲抄云六月後邪汗をそそぐなまなまりり
ひるあになまなまりりの河邊かへみみりり
くそあくそあののままりりすすままりり
タタ又又あありりととままりり

六月後むつきごののままりりととままりり

みづのたみづのたりりととままりり

福ふくののままりりととままりり

はなはなととままりりととままりり

七月しちがつののままりりととままりり

仰かしのろし後の序也最勝海の御後と聞召所也
序の序の續し雲白の内裏の御りまよるこふろと値
虎とらふこし〜真意、真の意〜

高きりた今、信守の、押入廊下、向に色

内侍所 賢所とし申す神鏡の〜八咫若直鏡

律意ヒ 無心ヤマトトシ 無心ココナリト 閻伽ア 水カ

栴ヒ 所伽ヒ ともなり

かげろよ 遊絲 蜂 蚊 踏 吟 野 馬 陽 燄

〜とらふこし〜虎とらふこし〜

夕うれの命かげろよけろよの河のらよのをたはれ

中まはるのりかよとめし清り。 昔うへ

あよのよの地かろしたる河のりかろ〜たはるあろれ

あのかよとらふこし〜虎とらふこし〜

祝部成中、いふ

日向し〜水場のりかろよの草上の〜花のちあえ

は〜のりかろよの草上の〜花のちあえ

あ〜のりかろよの草上の〜花のちあえ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across several lines. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise, consisting of approximately 15 lines of dense cursive script.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page, consisting of approximately 5 lines.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page, consisting of approximately 5 lines.

倣すに

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page, consisting of approximately 5 lines.

一休ノ名

貞徳長嘯子ノ方ノ松ノ地邊トテ讀リ

一 山に渡りては長者の舟に乗りて舟人一人
 一 舟に乗りては長者の舟に乗りて舟人一人
 一 舟に乗りては長者の舟に乗りて舟人一人
 一 舟に乗りては長者の舟に乗りて舟人一人
 一 舟に乗りては長者の舟に乗りて舟人一人

一 連放賦物五ヶ、山路末船人

一 一字病頭はくく火蚊香名、菜

一 二字反多はくく化り縷其の網水に籠る

一 三字伴畧はくく紙高柳、雨桂、唐の舟

一 四字上下畧はくく櫛玉、章、松苗代、橋、名

二 夕、担、騎

一 山に渡りては長者の舟に乗りて舟人一人

一 舟に乗りては長者の舟に乗りて舟人一人

一 舟に乗りては長者の舟に乗りて舟人一人

説小治政

夫は... 其の... 此の... 後成

南... 其... 伊... 院... 其... 伊...

南

南にふくまふとてかへりてはるの

そ

いかにいかにとてまふの

め

^{ミナ}めなるははるるの海の時

は

はのきりからんとてまふの

ま

蓮のよにまふとて胎の

ゆ

^マまやむにいとまふの

ゆ

ゆもはるるとまふの

園の埋火

と衆面実教

又かへりてまふとてまふの埋火

は

かへりてまふとてまふの埋火

こころのまふとてまふの埋火

けんげんまふとてまふの埋火

都を求むとてまふの埋火

ま

まをまふとてまふの埋火

富士のふもとにたつたおのつたの流るる水

はるかにまはるる水

おのつた

その水はまはるる水

おのつた

凝花舎 梅臺也 昭陽舎 梨臺

五合ハ 淑景舎 飛香舎 藤臺

龍吟舎 雷鳴臺也

この中へ梅臺と物と入られらるる

その水はまはるる水

今案古くは

まはるる水

はるかにまはるる水

まはるる水

まはるる水

まはるる水

催馬樂 律 伴 徳 海

八千餘艘の船もせしむるに
八百方 八功は地
はさしめはつちまはるゝん
人主代業部を冠して或は
植木と名は延暦寺に
舟楫古式
徳国津濟處設

美陀云云又まのほあまに
舟楫古式

美陀云云又まのほあまに
舟楫古式

美陀云云又まのほあまに
舟楫古式

美陀云云又まのほあまに
舟楫古式

美陀云云又まのほあまに
舟楫古式

美陀云云又まのほあまに
舟楫古式

美陀云云又まのほあまに
舟楫古式

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name, written in the same cursive script.

Handwritten text, possibly a name or a title, written in the same cursive script.

Handwritten text, possibly a name or a title, written in the same cursive script.

Handwritten text, possibly a name or a title, written in the same cursive script.

Handwritten text, possibly a name or a title, written in the same cursive script.

Handwritten text, possibly a name or a title, written in the same cursive script.

Handwritten text, possibly a name or a title, written in the same cursive script.

Handwritten text, possibly a name or a title, written in the same cursive script.

Handwritten text, possibly a name or a title, written in the same cursive script.

Handwritten text, possibly a name or a title, written in the same cursive script.

二四 伊豫國長門郡 中二後 鹿嶋 常陸 鹿嶋

ゆきよき水とあり 五よきけ三月ニあるはる
藤原氏ハ三月に鹿嶋をとりし大藏冠録足
跡とこれありし条記のよきしるし中臣氏に
有るなり

春日四所の大御神とし中一殿ハ武雷令鹿嶋
中二殿 木主ノ下 蘇我 中二殿ハ天津 尾尾
中四殿 天照 天照 天照 天照
神護雲二年 天照 天照 天照 天照

鹿嶋の御まのりよりありし神
神護雲二年 天照 天照 天照 天照
神護雲二年 天照 天照 天照 天照

鹿嶋の御まのりよりありし神
神護雲二年 天照 天照 天照 天照
神護雲二年 天照 天照 天照 天照

鹿嶋の御まのりよりありし神
神護雲二年 天照 天照 天照 天照
神護雲二年 天照 天照 天照 天照

母子業先工之申了又其日入道殿合舞求メ子
大野野治起五條后順子以^{タケ}友氏
截中院之考申副二條后立子以^{メイト}姪系
申後^ニ五中將書^テ北家^ヲ与^リ二条后

大原也小壇之山毛今日已曾者神世之事茂
忠出良目

人疑先^レ是^リ若^シ有^ル密事^ハ欲^ク或^ク云^フ在中將
為^レ嫁^カ伴^ノ后^ニ出家相梅其後^ハ生^レ孫^ニ
到^リ陸奥國向^リ八中嶋求^テ小野十町^ヲ尺^ノ友^ノ若^ク

伴馬終取有^ル音日^ク秋^ノ氏^ノ吹^テ仁^ヲ付^テ天^ノ免^ヲ阿
日^ノ部^ノ日^ノ後^ニ朝^ノ爵^ヲ辭^シ日^ノ中^ニ有^ル藏^ノ徹^ト五^ノ光
將^ノ源^ノ法^ノ日^ク

郵止波不成^ニ淳生計里師^ニ欽^テ菘^ノ中^ノ將^ノ子^ニ

依^テ高^ノ家^ニ依^テ高^ノ家^ニ高^ノ階^ノ氏^ノ
于^テ今^ノ不^レ參^ル依^テ依^テ故^ノ中^ノ宮^ノ大^ノ原^ノ野^ノ訪^ノ時^ノ改^メ

卿^ノ進^ノ五^ノ條^ノ后^ノ行^テ啓^ル時^ノ行^テ列^シ以^テ國^ノ人^ノ數^ノ之^ヲ
人^ノ之^ヲ其^ノ好^ム其^ノ好^ム其^ノ好^ム其^ノ好^ム其^ノ好^ム
人^ノ之^ヲ其^ノ好^ム其^ノ好^ム其^ノ好^ム其^ノ好^ム其^ノ好^ム
人^ノ之^ヲ其^ノ好^ム其^ノ好^ム其^ノ好^ム其^ノ好^ム其^ノ好^ム

うは依り紀、舟遊ん馬の骸すむる史、亦抄此之
そ強、却に、玉野の、いのか、此に、祓、麻、み、り、と、
為、深、垣、守、り、る、の、中、に、お、神、を、い、く、
新、撰、之、帖、に
若、ら、の、こ、に、り、る、の、い、ん、を、い、る、の、や、に、ゆ、は、る、
深、ら、し、て、し、り、る、ぬ、い、を、い、る、の、た、の、書、を、い、
今、の、員、を、い、る、の、い、れ、ぬ、い、の、中、に、い、
日本書紀、
下、卷、
下、卷、

如川陸神、万々に

河川陸神の萬々に、今、有り、ら、る、と、
下、卷、

道祖神 五經要義曰、祖道、行、祭、為、道、路、祈、

也、師、古、曰、黃、帝、子、名、累、祖、好、遠、遊、而、死、於、道、
故、後、人、以、為、行、神、出、行、者、祭、之、曰、饗、飲、

文、應、劭、凡、俗、通、曰、謹、案、禮、傳、共、工、之、子、曰、佚、
行、遠、遊、舟、車、所、至、足、跡、所、達、無、不、究、

覽、故、祀、以、為、祖、神、祖、祖、也、俗、名、道、祖、云

亦、ら、の、り、る、の、地、に、り、と、大、同、の、天、子、御、を、い

所、と、り、る、の、地、に、り、と、大、同、の、天、子、御、を、い

大、同、の、天、子、御、を、い、と、
大、同、の、天、子、御、を、い

法皇御製

是の世にあらばこそいふべきことなり
つとむべき世の御製なり
つとむべき世の御製なり

皇の院

世にあらばこそいふべきことなり
つとむべき世の御製なり

皇の院

皇の院

つとむべき世の御製なり
つとむべき世の御製なり

法皇御製

御製

つとむべき世の御製なり
つとむべき世の御製なり

御製

つとむべき世の御製なり
つとむべき世の御製なり

つとむべき世の御製なり
つとむべき世の御製なり

補陀洛々南此岸にまなこくからけり多しおのち原
にかり少家の名をこく入りて流根にららり

厚北塞コビドよりさきむらじき物同より事あり
夫亦北塞云

孝心トコロのりぬくに長きも初にみ厚の堅

公事書おこ厚八日柳北塞に民所寄書あり

二月三日より燕ツバメがりあり一りおはあり

カハエマの事お十二云

二月三日のりぬくに長きも初にみ厚の堅

カハエ

燕ツバメのりぬくに長きも初にみ厚の堅

うしに神原より書ありお八日子の威新オウシのり

遠はち橋井王カホキと書あり天皇にカホキよりあり

川原の神の流をもち書ありとぬし

ちかより千人とぬし

おのちもさしぬくに長きも初にみ厚の堅

けさや 思見抄云ゲキヤ 二書也アラウス 抄あり

おのちもさしぬくに長きも初にみ厚の堅

川原の神の流をもち書ありとぬし

神道に先んじて後へるものなりと云ふは後の事なりと云ふは前の事なり

と云ふは神道の事なり

神道の神は神皇正統記に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

神代卷の神代卷に依りて神代卷に

中と能く應得中為表分令て一物とせり
中^{スミ}向^{ユル}能く神功^{スミ}身^{ユル}所^{ユル}にして^{スミ}多^{ユル}事^{ユル}ありたり

也又卜部ノ東直ノ分

西ノ海^ノ橋^ノノ厚^ノの地^ノ跡^ノより引^レん^ル出^ルは^レ分^ノの^ノ所^ノ

い^レる^ノの^ノ在^ルノ^ノ所^ノ十九^ノ神^ノ部^ノは^レ色^ノ切^レた^レに^レ修^レ修^レ

か^レ海^ノに^レ行^クた^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ神^ノ部^ノに^レ行^クた^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

關^ノノ^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

行^クた^レは^レそ^ノの^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

相^ノノ^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

み^レた^レは^レそ^ノの^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

じ^レと^レは^レそ^ノの^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

人^ノの^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

實^ノ證^ノ云^レ南^ノ海^ノノ^ノ南^ノと^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

西^ノノ^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

知^レる^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

西^ノノ^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

西^ノノ^ノ所^ノを^レと^ルて^レは^レそ^ノの^ノ所^ノ

...の...
...の...
...の...

はは南の凡にほみるのちくつり...の...
...の...

美流を...
...の...

月ノ...也
...の...

九福抄云...
...の...

...の...
...の...

射礼...
...の...

乃中...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

...の...
...の...

美流云 禱カ推色 將衣の後 下りたり
 のとりりてあるものにおちりしきる後
 への青じ色は 柱動去力 日禱に色而
 とらえしと 織たる布之 夷狄日斗 駢去
 一衣とらるら 今なるもの せし
 花賀はかえり 二あるはの ころより
 誰人なるを せしむるを せしむる

春ハ有り 花賀はかえり 秋ハ有り
 花賀はかえり 春ハ有り 秋ハ有り

花賀はかえり 二あるはの ころより
 誰人なるを せしむるを せしむる
 花賀はかえり 二あるはの ころより
 誰人なるを せしむるを せしむる
 花賀はかえり 二あるはの ころより
 誰人なるを せしむるを せしむる
 花賀はかえり 二あるはの ころより
 誰人なるを せしむるを せしむる
 花賀はかえり 二あるはの ころより
 誰人なるを せしむるを せしむる

半也 起居 衰也 位日 内職 故陰 中 乾 故
 毎身 始 衰也 又 衰 樞 維 曰 人

膝^カ剛^リ始^ラ踏^カ宋^カ花^カ稍^カ落^ク後^カ以^テ白^クと云^フは
ら^カん^テ沈^ムり^カり^カん^テ白^クと云^フは^カた^カの^カゆ^カ
か^カら^カと^カ始^ラり^カし^カ喜^ム守^ルと^カい^フは^カ。

忘^レ草^ト 忍^ル草^ト、一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。

一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。
一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。
一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。
一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。
一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。
一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。
一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。
一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。
一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。
一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。

忘^レ草^ト 忍^ル草^ト、一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。

忘^レ草^ト 忍^ル草^ト、一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。

忘^レ草^ト 忍^ル草^ト、一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。

忘^レ草^ト 忍^ル草^ト、一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。

忘^レ草^ト 忍^ル草^ト、一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。

忘^レ草^ト 忍^ル草^ト、一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。

忘^レ草^ト 忍^ル草^ト、一^ク草^トニ^テ是^レ關^ス節^ト也^ト云^フ。

とふりし美と云ふにじつは地志と書く御厨
五七の冠もさういふの冠もさういふの冠も
一考

軒乃乃のふく紅雲すせいのり
軒乃乃のふく紅雲すせいのり
軒乃乃のふく紅雲すせいのり

萱草我のよぬにゆられぬのを許すよこし
萱草我のよぬにゆられぬのを許すよこし
萱草我のよぬにゆられぬのを許すよこし

是乃醒草といふ草花すこ
是乃醒草といふ草花すこ
是乃醒草といふ草花すこ

分親蜀の姥 詠りし志憂ト之は萱草
分親蜀の姥 詠りし志憂ト之は萱草
分親蜀の姥 詠りし志憂ト之は萱草

北一代集
北一代集
北一代集

美草 貞和天皇 貞和天皇 貞和天皇
美草 貞和天皇 貞和天皇 貞和天皇
美草 貞和天皇 貞和天皇 貞和天皇

文武天皇 孝徳天皇 桓武天皇
文武天皇 孝徳天皇 桓武天皇
文武天皇 孝徳天皇 桓武天皇

萬葉 二十卷泊瀬朝倉河中 平城天皇御
萬葉 二十卷泊瀬朝倉河中 平城天皇御
萬葉 二十卷泊瀬朝倉河中 平城天皇御

製龍毛與及龍母乳布久思毛與及
君之御所兵撰者衣在橋法之或說中
納之家抄以年記一尋

古今

二十卷

新教千二百首

古本
之方

身之御所衣在橋法之或說中納之家抄以年記一尋

醜醜天月

延喜五歲四月十日

和帝贊之

真名帝紀

紀本則

紀贊之

凡河内躬恒

主之志

後撰

二十卷

有教千二百九十六首

解仍知原

長保三年之白衣子より七年に成りて方しぬる

望城 順時文 徒宣 元補 初林壺 古之

村上天皇

天曆五年十月 曆寛永二二万七千二百

松遊

長保三年之條記より寛永二二万七千二百
二曆之撰御所集宣永元之とあるに千四百
二二万七千二百

後撰拾遺 四十九年

拾遺二十卷 十二百五十一首 壬午力也

万葉、陰、堅、禰、三代皇

皇、御、名、高、麗、皇、女、弟、山、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫

花山院 御、名、高、麗、皇、女、弟、山、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫

後撰 二十卷 十二百八首 尖君 宣中 宣中

皇、御、名、高、麗、皇、女、弟、山、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫

白河院 皇、御、名、高、麗、皇、女、弟、山、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫

金葉 十卷 十二百四首

御、名、高、麗、皇、女、弟、山、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫

皇、御、名、高、麗、皇、女、弟、山、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫

撰、大、臣、保、後、朝、臣

皇、御、名、高、麗、皇、女、弟、山、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫

皇、御、名、高、麗、皇、女、弟、山、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫

詞苑 十卷 四百六首 大、臣、保、後、朝、臣

皇、御、名、高、麗、皇、女、弟、山、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫

景、御、名、高、麗、皇、女、弟、山、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫、皇、孫

説書子載る飛鳥をて實事なるを平八

千載

二十卷

子抄のし中四卷

信長が教

春の物にふりていふに信長が教をいふにふりていふに

信長が教の巻

後付河内文治二年及び其の巻

信長が教の巻

新古今

二十卷

あまの七十一

信長が教の巻

あまの七十一の巻に信長が教の巻をいふに

後付河内

元文二年二月九日の巻

信長が教

有家定家の巻

信長が教

あまの七十一の巻に信長が教の巻をいふに

信長が教の巻に信長が教の巻をいふに

信長が教の巻

あまの七十一

新古今

二十卷

信長が教

あまの七十一の巻に信長が教の巻をいふに

後河内院

貞永三年十一月

後河内院

續後河内院

二十卷

皇太后

後河内院

後河内院

續後河内院

後河内院

同院

後河内院

續後河内院

後河内院

後河内院

前二冊を有也

後二冊は定本と云ふ事なり

新後撰

二十卷

のあらはし

名も細し有也

江原州に於て長あやけてあけのきこふ事なり

漢字集 五之巻 十之巻 十一之巻

玉象

二十卷

うらなひ

紀世

りあふりし事なり

花園院御侍の御勅に和元年二十九年の事なり

名も細し有也

漢子載

二十巻

名も細し有也

ある事なり

漢字集 文信二年より十の巻なり

名も細し有也

漢字集 二十巻

今新刊の如きものありしに、
平家 後醍醐天皇 正申三年十一月の奏之

（中略）

風雅 二十卷 二十二年十月の奏之

（中略）

文正天皇御自撰 自祐二年十月の奏之

或説光明院之秋の御自撰の撰

新編 二十卷 二十二年十月の奏之

白文原より後

（中略）

清光帝代 正文四年十月の奏之

（中略）

新編 九卷 二十二年十月の奏之

（中略）

同院 貞治三年十月の奏之

...
...
...

約法抄遺 九卷 小倉百廿七
乃交

...
...
...

後田融光 水法印中ノ...

為重の 傾名序後抄...

約法抄 二百廿七卷

雅

...
...
...

後花園院ノ 抄...

撰者 中興ノ 雅世

以上十二代集

加代北一代集 萬葉集元 北二代也

款教合之...
...

小百五首

考る枝の氣に花もて初と入は。初陽毎朔末
月朔還本柄とすユキ流りいとも名のけり
毎まなれしつる花なり。ちあさきかじとさ
みだるよこしきるる。行きの浦のみか免し
しるしのつゆあはにこころあつた又
花れしつるとすうらとつるれいあもよあはに
あつるそりまにちのあつたのしつる
あり

暮秋

ふしのあつたは花もて初と入は。初陽毎朔末
月朔還本柄とすユキ流りいとも名のけり
毎まなれしつる花なり。ちあさきかじとさ
みだるよこしきるる。行きの浦のみか免し
しるしのつゆあはにこころあつた又
花れしつるとすうらとつるれいあもよあはに
あつるそりまにちのあつたのしつる
あり

南宮のあつたは花もて初と入は。初陽毎朔末
月朔還本柄とすユキ流りいとも名のけり
毎まなれしつる花なり。ちあさきかじとさ
みだるよこしきるる。行きの浦のみか免し
しるしのつゆあはにこころあつた又
花れしつるとすうらとつるれいあもよあはに
あつるそりまにちのあつたのしつる
あり

陰 住吉社壇詠十首

和音牡丹花 宵柏尾 夏庵

閑中春暁

春暁の暁は春の暁に似たりけり

暁の暁

暁の暁は春の暁に似たりけり

暁の暁

暁の暁は春の暁に似たりけり

暁の暁

暁の暁は春の暁に似たりけり

暁の暁

暁の暁は春の暁に似たりけり

暁の暁

暁の暁は春の暁に似たりけり

暁の暁

けしきをなすみしははく海にのりて
あ

相見思ふ

あまのこころしほくはらふはらふはらふ

吉原遠く

あまのこころしほくはらふはらふはらふ

松葉道廣

あまのこころしほくはらふはらふはらふ

あまのこころしほくはらふはらふはらふ

定家松陽凡言

北首

あまのこころしほくはらふはらふはらふ

あまのこころしほくはらふはらふはらふ

あまのこころしほくはらふはらふはらふ

あまのこころしほくはらふはらふはらふ

ふしな馬を教進及校令する也
てい否運死や辱紙新玉の湯白象

うたふらふらしたのころなわを
ばあていれな

己が身はわたの身とあつて
ばあていれな

うたふらふらしたのころなわを
ばあていれな

うたふらふらしたのころなわを
ばあていれな

うたふらふらしたのころなわを
ばあていれな

うたふらふらしたのころなわを
ばあていれな

うたふらふらしたのころなわを
ばあていれな

うたふらふらしたのころなわを
ばあていれな

うたふらふらしたのころなわを
ばあていれな

うたふらふらしたのころなわを
ばあていれな

松月と書にりるなるなり

松月

松月と書にりるなるなり
河上月とるるるるるる

難波八景歌

田叢夜祭

田に若る向きの松るりるるるるるる
かぎし小松とるるるるるる

松月

松月と書にりるなるなり
河上月とるるるるるる

松月

松月と書にりるなるなり
河上月とるるるるるる

松月

松月と書にりるなるなり
河上月とるるるるるる

松月

松月と書にりるなるなり
河上月とるるるるるる

松月

松月と書にりるなるなり
河上月とるるるるるる

長柄也

長柄の川原とては老翁の
乃得のりたれのみ
ク言えしやまはるるや
うけのまらるるも

先帝御製

後光明院

杜鵑

杜鵑千里啼

聽得盡欄西

一叫消愁父

曉更月欲殘

後光明院御時 仙何門

あはれはたはれを
あはれをたはれを

則權大綱言為兼号 毘沙門堂 定家為家為教為

権大綱言為兼号 毘沙門堂 定家為家為教為
権大綱言為兼号 毘沙門堂 定家為家為教為
権大綱言為兼号 毘沙門堂 定家為家為教為
権大綱言為兼号 毘沙門堂 定家為家為教為

四年三月六日有東使より言ふに、
 流泉公卿補任にふたりたり或説に為
 兼佐渡鳴く流ふて、和行世之首とよむ
 阿弥陀佛よりよみと聖徳太子遠にあり
 是よりて救免しと喜ぶ之を平歸洛
 こと、
 川と後らるる
 也、
 なる

素集

この國は無財事なりといふも、
 流泉地

徳
 上高きの方社なりといふも、
 日
 流泉地

西
 流泉地なるなりといふも、
 流泉地

南
 流泉地なるなりといふも、
 流泉地

東
 流泉地なるなりといふも、
 流泉地

乾
 流泉地なるなりといふも、
 流泉地

坤
 流泉地なるなりといふも、
 流泉地

良
ら
之
後

後人

光益元 藤原正 九藏童 滋久 定友 正孝法師

橘長敏 実仲法師 慶長法師 宗祇法師 宗伯法師

東伯法師 三品新王 心教 宗勘 宗祇

守順 肖柏 彦庵 牡丹花 去 宗長 兼哉

若名 松之羽

後
の
つ
は
こ
の
後

見聽雜記

五

子

共十二冊

廿五冊之內

皇天宗廟... 皇天宗廟... 皇天宗廟...
 皇天宗廟... 皇天宗廟... 皇天宗廟...
 皇天宗廟... 皇天宗廟... 皇天宗廟...

鎮^{ハナカ}奏 天智天白^{ツクシ}未^ミ即位^イ御時^ミ乞^ヒ食^シ相^サ也^ヤ在^シ申^ス云^{ハク}
 帝位^ミ即位^イテ乞^ヒ食^シス^ル具^スル相^サ又^マ難^シ道^ト也^ヤ
 小佐嶋ト云^{ハク}邊^ニテ疲^レ臨^ミ給^ヒタシ共^ニ供^フ御^スモテカリケリ網^ヲ
 引^キ海^ノ人^ニ魚^ヲメサレテ御^ス疲^レ休^ム我^レ即位^スアラハ必^ズ供^フ所^ニ
 夫^レヨリメ此^ノ魚^ハ統^メタメシ備^フ也^ヤ

吉野國栖^{クニ}トハ舞^ノ人也^{ナリ}國^ノ栖^ル久^シノ姓^ノ也^{ナリ}清^ク也^{ナリ}至^リ主^ノ大^ノ友^ノ子^ノ
 栗^ノノ御^ス料^ニウクヒト云^{ハク}魚^ヲ具^スメ供^フ所^ニ備^フ奉^ル時^ニ朕^ノ帝^ノ
 位^ニ昇^リハ公^ノ初^ニ供^フ所^ニ召^シントト云^{ハク}也^{ナリ}即^チ位^ニ後^ニ召^ス
 將^シ弟^ノヲ給^フ年^ノトシ豊^クノ力^ヲノ一^ノ五^ノ即^チモ^テ給^フ年^ノト
 栗^ノノ御^ス料^ニウクヒト云^{ハク}魚^ヲ具^スメ供^フ所^ニ備^フ奉^ル時^ニ朕^ノ帝^ノ
 位^ニ昇^リハ公^ノ初^ニ供^フ所^ニ召^シントト云^{ハク}也^{ナリ}即^チ位^ニ後^ニ召^ス
 將^シ弟^ノヲ給^フ年^ノトシ豊^クノ力^ヲノ一^ノ五^ノ即^チモ^テ給^フ年^ノト

い以イ意己伊異

乃品口路

は波ハ葉也半也

仁ニ丹^カ尔^示耳^イ干^マ

保^ホ本^本亥^亥

へ^反遍^遍邊^邊返^返倍^倍



と^止土^止ト止登東

ち知千_子遲地_子

り利リ里梨李

理

ぬ奴又努如

る留心類流

を遠ヲ越緒乎

相和ハ王倭

か加力賀可閑

た又與ヨ夜与余

た太又多堂佗

れ礼レ禮連焉

了曾ソ素楚百_レ

つ鬪^斗ツ津都_レ

内称子稱
な奈十南那
ら良う羅
じ武
う宇
乃為井
ノ井居
濃農能
無舞年
吳遠委

久於才尾雄
く久才尾雄
や也ヤ屋
ま未二
け討ケ
ふ不フ
之古コ
今

希氣遣
周滿萬
婦布

巾

以衣工江元
て天予毛典傳
亭

あ安尸阿
斜

さ左サ
伏

き幾キ
起支記

ゆ由ユ
遊

め女メ
免西

み美ミ
見

し之シ
志新

忍惠正
衛

ひ比ヒ
日飛非然

も毛モ
茂母志

世世セ
勢

寸寸ス
須

一 壹 式

二 貳 式

三 參 式

四 肆 卅 三

五 伍 五

六 陸

七 柒 漆 漆

八 捌

九 玖

十 拾

廿 卅 卅

百 千 万 億

十 億

兆

京

垓

穰

穰

溝

澗

正

載

極

川

恒河沙 阿僧祇 那由他

不可思議 無量 大數

小數名事

兩 文 分 厘 毫 絲 忽 微 纖

沙 塵 埃

斛 數名事

斛 斗 升 合 勺 抄 撮 圭 粟

田數名事

一町 一畝 一反 一頃

一畝 一畝 一畝

一分 一厘 一絲

一毫 一絲 一微

一忽 一微

一仟 一丈 一尺

一本 一束 一匹 一粒 一盞

但六十間四方也

三十步云云

長六尺五寸廣

長六寸五分

長六分

百六十目又事

二端

昔ハ三百六十坪

一坪云云

長六寸五分

長六分

長六分

一丈

一尺

一駄馬 一艘舟

二九十八	三九七	四九六	五九四	六九五
七九六	八九七	九九八	一〇九九	二〇〇〇
三〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	七〇〇〇
八〇〇〇	九〇〇〇	一〇〇〇〇	一一〇〇〇	一二〇〇〇
一三〇〇〇	一四〇〇〇	一五〇〇〇	一六〇〇〇	一七〇〇〇
一八〇〇〇	一九〇〇〇	二〇〇〇〇	二一〇〇〇	二二〇〇〇
二三〇〇〇	二四〇〇〇	二五〇〇〇	二六〇〇〇	二七〇〇〇
二八〇〇〇	二九〇〇〇	三〇〇〇〇	三一〇〇〇	三二〇〇〇
三三〇〇〇	三四〇〇〇	三五〇〇〇	三六〇〇〇	三七〇〇〇
三八〇〇〇	三九〇〇〇	四〇〇〇〇	四一〇〇〇	四二〇〇〇
四三〇〇〇	四四〇〇〇	四五〇〇〇	四六〇〇〇	四七〇〇〇
四八〇〇〇	四九〇〇〇	五〇〇〇〇	五一〇〇〇	五二〇〇〇
五三〇〇〇	五四〇〇〇	五五〇〇〇	五六〇〇〇	五七〇〇〇
五八〇〇〇	五九〇〇〇	六〇〇〇〇	六一〇〇〇	六二〇〇〇
六三〇〇〇	六四〇〇〇	六五〇〇〇	六六〇〇〇	六七〇〇〇
六八〇〇〇	六九〇〇〇	七〇〇〇〇	七一〇〇〇	七二〇〇〇
七三〇〇〇	七四〇〇〇	七五〇〇〇	七六〇〇〇	七七〇〇〇
七八〇〇〇	七九〇〇〇	八〇〇〇〇	八一〇〇〇	八二〇〇〇
八三〇〇〇	八四〇〇〇	八五〇〇〇	八六〇〇〇	八七〇〇〇
八八〇〇〇	八九〇〇〇	九〇〇〇〇	九一〇〇〇	九二〇〇〇
九三〇〇〇	九四〇〇〇	九五〇〇〇	九六〇〇〇	九七〇〇〇
九八〇〇〇	九九〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇一〇〇〇	一〇二〇〇〇

雲光院波支神尾刑部少輔波後テ前 御阿茶

ト申 権現様御局ニテ候鷹司以ヨリ

中ノ丸様江戸へ入セラレ候節御迎ニ上リ被申

後水尾院御位之時雲光院御位階被下候

二位九一位方ト御詮儀テ候処二位ハ常ニモ

有事ニ候間一位ノ可被下ト 勅諭由サレ居

常ノ者ハ一位被下難キ由テ 台徳院様

御袋様方ニ被成一位ノ被下ソシテ一位被

ト申 候由

月堂上座入室呈所解頌云 駒嶺過來
到^上臥嶺梅花新^重發去^去羊枝可憐無限
傷春意盡在停針不語時山僧看了
云如何是上座傷春意堂云鉢馬馳^鉢深
^新泥牛吼上九天山僧云此是語話底不語
意依麼生堂便唱山僧云意旨如何
堂拂袖出去山僧云許汝三十棒元且

祝聖念經了大眾誦方丈禮和尚大眾
普同禮拜畢收座具月堂問旧歲連夜
去新年^侵侵曉來如何是新年頭佛法
師去瑞氣耀乾坤堂云与麼則法運^招紹
泰祖道長真願師說^依依的之宗要普全
大眾得^了聞如何是^了了^了一^了玄師云一氣含^了百象
堂云如何是^了了^了二^了玄師云春到^了百^了花開堂
云如何是^了了^了三^了玄師云木人^了用^了笑^了顏堂云

三玄委曲蒙指示又一句說示三要師便喝
堂云不登半即山頂高華見東海第一
春禮拜師云四海香風從是起

七百高僧爭占先老盧夜半獨提還

孰知用得天口頰納春風擔一肩

壬子上元日贈
錫孟送月峯上元
舊隱長興
鐵牛山僧也

一鉢流曹溪廣量合虛空能

護持慧命永安吾日東

寬文壬子春姑洗月二十七日後堂越傳公告

假回山山僧云劇勳多年履踐固守底

事其識見高深山僧頗知只如今日別

山僧去住山且道以何為在堂云八角磨盤

空裏走山僧云恁麼則活鱖無碍是
真常住復問云如何是山中境界云隨
機應用信手拈來山僧復問云如何是
山中人堂云倒保赤西山僧云只此
赤西是結佛之本原善自護持隨
豎拂云這枝拂子乃從上流傳底今
與周黎表信應須慎重復示一偈本

色住山沒迹蹤條々赤々迫羅竹籠菓
然際會風雲處大振網維顯正宗

黃檗木庵山僧書付

當山方本寺
三寶院也

後堂越傳公

一當山方山伏法師初列山色部永久寺
山城經山山金剛王院法流後經師常金金藏入

欽以前聖護院二品法親王道寬名後水尾

院宮而從三井寺開山智證大師卅五代法胤

皇子也

崇德院朝天治三年以三井寺行幸為大修正為熊野三山檢校下預

上經翻寺四千八百石
三寶院勝覺正聖堂
左府後之崩公男也世應司也

下經翻寺四千八百石
三寶院勝覺正聖堂
本山方山伏本寺也

真言宗
內山金剛乘院
寺領九百七十一石

休 木 河 泊 田 古 河 泊 寺 池 寺 八 九
 古 寺 河 邊 備 土 河 泊 安 祿 十 河 休 山 上 河
 河 泊 小 篠 十 河 邊 名 十 河 泊 天 川 十 河 休
 泥 川 河 泊 小 篠 十 河 十 河 十 河 十 河 十 河 十 河 古 河 泊
 殊 山 十 河 泊 深 山 十 河 十 河 十 河 十 河 十 河 十 河
 十 河 邊 名 十 河 泊 平 地 九 月 朔 河 泊 葛 川
 十 河 泊 玉 壺 十 河 休 切 原 河 泊 本 主 河 邊 備
 寺 河 泊 新 美 十 河 邊 名 寺 河 休 廣 美 河 泊 那 智
 十 河 邊 名 九 河 泊 本 主 古 河 休 發 心 門 河 泊
 近 露 寺 河 休 芝 河 泊 田 邊 寺 河 休 卯 南
 河 泊 小 松 寺 十 河 休 猪 背 河 泊 橋 本
 寺 河 休 御 所 芝 河 泊 雲 蓋 院 十 河 泊
 伽 陀 十 河 休 山 台 河 泊 信 達 十 河 休 塙
 河 泊 大 坂 十 河 京

寺 河 邊 名 十 河 泊 廣 美 十 河 邊 名 寺 河 休 廣 美 河 泊 那 智
 十 河 邊 名 九 河 泊 本 主 古 河 休 發 心 門 河 泊
 近 露 寺 河 休 芝 河 泊 田 邊 寺 河 休 卯 南
 河 泊 小 松 寺 十 河 休 猪 背 河 泊 橋 本
 寺 河 休 御 所 芝 河 泊 雲 蓋 院 十 河 泊
 伽 陀 十 河 休 山 台 河 泊 信 達 十 河 休 塙
 河 泊 大 坂 十 河 京
 寺 河 邊 名 十 河 泊 廣 美 十 河 邊 名 寺 河 休 廣 美 河 泊 那 智
 十 河 邊 名 九 河 泊 本 主 古 河 休 發 心 門 河 泊
 近 露 寺 河 休 芝 河 泊 田 邊 寺 河 休 卯 南
 河 泊 小 松 寺 十 河 休 猪 背 河 泊 橋 本
 寺 河 休 御 所 芝 河 泊 雲 蓋 院 十 河 泊
 伽 陀 十 河 休 山 台 河 泊 信 達 十 河 休 塙
 河 泊 大 坂 十 河 京

祇園緣起云天竺北有國名九相其國有園名吉祥其園中有城名中有王名牛頭天皇又名武尊天神取女曼揭羅羅龍王女為后生八王子其養育屬八万四千六百五十四神 書云鳴唐云牛頭天王又云武尊天神云天竺云舍此羅羅神又摩訶訶羅神云或盤古王云此云撰集抄云祇園大明神託宣云本体八層應那久遠成正覺為度衆生故示現大明神

八幡緣起曰筑前宮崎有八幡宮昔白幡黑幡四自天降于州故為八幡植松而為標至今猶在

極樂寺八幡宮護國寺別當安宗開山也緣起云大安寺傳燈大師位安宗謹言加藍臺院号曰極樂寺在山城國久世郡右件寺奉為石清水八幡大菩薩三所君達梵天帝釈天神地祇兼師僧父母六親美自屬三有法界有識無識皆奉心為令往生極樂淨土以去元慶濟年始所建之也云

源
相利家康
相利家
相利家

秀吉公御代

高麗陣之時

武藏一國徐國八入組也
東海遠近二十三次子石之
五十三石

五人宿老

利家
家康卿
輝元
秀家

三人小宿老

生駒雅樂頭
中村式部輔

五人之奉行

長束大藏大輔
堀尾帶刀先生

天正廿年 于辰改文祿元

朝鮮陣七年

壬辰三月朔日秀吉公都立之至于肥前國

名護屋御着陣之朝鮮御報之

美越王七月廿二日大政所殿御煩之

御歸洛被成九月又九州有御下向也

癸巳夏加藤元馬助等重而朝鮮渡海

折節 船軍有之

甲午八月廿五日將軍至千大坂御取城也三奉行

玄以の京於子司代格外ノ新奉
寺社ホノ儀ノ掌ハ依有學力也

領甲長三十四石
因乃以內五石石松

伊藤丹後守長實
早水甲斐守時之
堀田島書助勝嘉
野村守雅春
中嶋式守賴種
真野豐後守賴包

堀田島書助勝嘉
野村守雅春
中嶋式守賴種
真野豐後守賴包

衆モ朝鮮ヨリ歸朝ス
 未ヨリ戊戌迄四年ハ朝鮮船着地之利
 全キ所要害十ヶ所拵へ當年之報シ
 置給ヒシカ戌之秋在陣之報悉ク日本へ
 引取畢

一トリノゴドウサ水 一末ミ 四極極半 二カワ 廿七
 一庫内 一末ミ 四極極半 二カワ 廿七
 右の極極ヤキテ入麻ノウキニ包ニ入るヤシコス
 大瓶不腐保茶ホノ色極極は五ノ

石摺真似方 鉄炮之セシクツ 危ニ半方
 明器末 茶抄ヲ 嵐盡美ニ粒 酢 不入水
 天目ニ八分及ハ一日二夜程置冬ハ二日三夜
 程入置絹ニテコシ其破ニテ白草ヲ以テ
 唐帛ニ書乾テ後ウラヨリ墨土ヲ引也
 繪之具拵様之覺

一光明朱 水ニカハ尺山ニ入ツカフ
 一タビノ朱 二カハサ入水ニテ人ベテツカフ

一ウウド 一エシジ 一ヒヤクシク 右同新

一ゴフシハ 粉ニシテニカハニテ餅ノ様ニカメ水沢

山ニ入煎シテ其後泡ノ多クツ相因ニシテ扱水ツ捨右カメメツゴフシスリテ侍

一ヤウエンジハ 水ニテシメ扱アタメメシ成程
シホリテツカフナリ

一アイテウハ 絹色ニ水ニテシホリツカフ

一シワウハ 水ニテホリツノノマツカフ

一コンゼウハシウハ 口傳アリ

繪之具合様之事

一カウ色ハ 朱ト 一栴色ハ 朱ト

一薄紫ハ エシジト 一薄黄ハ アイロウト

一ウス栴ハ 烏シド、 一嵐色ハ 墨ト

一青茶ハ ヒヤクシク 一唐茶ハ 朱ト墨ト

ヌリ上ニシワウツ引

ヌリ上ニシワウツ引

人之面サイイシキ様ノイ

一着面（ゴラシニ朱） 一中位面（コラシニワウド）

一老人（ゴラシニワウド） 一草色（サニ朱）

一草色合様藍ラウトシワウ入ツカフ也

一深（スツフサ） 一深（スツフサ）

右等分セシク深妙也

古註日本傳來本朝人皇二十七代繼體天皇三年梁武帝天監八年自百濟國五經文書等渡吾朝也

新註傳來並讀傳之事人皇一百一代後松院之御宇應永十年南渡般船載四書集註與詩經集傳來

古者四書ノ名ナシ宋朝向南程兩夫子礼記ノ中ニ於テ學庸ノ二篇ヲ授テ論孟ニ合テ

為四書 或云仁宗時天聖八年大學士
拔之呂臻賜中庸之同五年拔之王堯
臣賜之卜

和列修上級
大寧寺 初名百濟寺 後名大官寺 智任太子至創布於七古寺 其寺也 南大寺也

元三大師 慈惠後身 勅言大師也

元亨釋書 釋良原始木津氏近列傳并郡
人也延喜十二年九月日生年十二上叡山師
理山延長六年禮專意登壇受戒

康保三年八月補天台座主領山教力者二十

奉天元四年為大僧正兼法務聽聲車

永觀三年正月三日唱強陀而威不壽七十四賜

謚慈惠 朝廷予慈惠下分り謚号スレ也

山川ニハ押テ慈惠大師トナリ 傳教 弘法

慈覺 智澄ノ外ハ大師ナリ 池樹共後身

近所ノ南光坊大僧正慈眼大師ト謚ス 公女大師也

佛書ニ火葬水葬林葬土葬ノ四種有昔年日本ニハ皆土葬ニナリ
ケルシ人王四十二代云即天皇時ニ元真寺ノ道昭シ火葬ニニナリ
ヨリ日本ニハ火葬ナリトシ始メリ
行基始置山城五戸陀林
所謂五戸陀林者鳥部野中山最勝河原東寺西野狐塚鶴林

春日

天兒屋根命也 三笠山

四所大明神

第一武雷命虎鳴 武彥毛槌神
才二齋主命查殿 又曰經律主命
才三天兒屋根命 弟四姫太神天照大神の

又若宮凡字屠氏の教業比知文と云り
御祭と云り十一月廿七日也 次乃ハ大らニ田樂有
雉狸兔等ノ少志と云り今有流鎗馬有
大七りりりゆ故ノ前ハ人ノ集あり 経物大鳥居
前ノ通り 一々ハ猿樂ノ前ハ夜ハ入り故ノ前ハ
可まふと云り 志ハ二徳あり 當社ハ一年目ニ造受
御旅所ハ毎年ニ立

新能ノ事

南大門ノ前 芝ノ上ニテ有

二月六日より十二日まで毎夜流あり七日より十三日の内
雨ハ下りたりと云り又若宮ノ前ハ夜ハ入り故ノ前ハ
志ハ二徳あり 當社ハ一年目ニ造受 御旅所ハ毎年ニ立

八景

南園堂藤 左室何螢 猿沢池月 春日野鹿
三笠山雪 雲居坂雨 東大寺鐘 夷橋行人

元真寺

高麗惠灌 百済惠脱 住持云々 寺領

興福寺

大藏冠鐘足の修也 東令堂 兼法師

元明朝 和銅三年 春日ノ地ニ 西令堂十一面觀音 釈迦 南園堂 不空羅索觀音
初山階ノ地ニ 常寺ニ 維摩會堂と云り 講堂 阿弥陀 小円堂
又和銅ノ 廐坂 食堂 千手 藤氏ノ御旅所ニ 其基本也

東大寺

八宗兼學子

聖武天皇御建立

天平十七年八月七日佛十之造

後重坊重原

再興日本四ヶの大寺

八幡のまゝ

佛類三十一

戒壇院千手

念佛堂地蔵

法華堂

真言院

念佛堂地蔵

寶藏

蘭奢待

蘭奢待

唐名黃熱香

同大紅沉

本口一尺長三尺有

御劍三振

鉾十計

八參卷物

麝香瑠璃壺一

金銀ノ道具

即子針

唐木團扇

樂ノ裝束

其外道具多

計

唐木團扇

樂ノ裝束

多有

其外道具多

聖武皇帝

二月堂

銅七寸ノ大悲像

實忠

三月堂

例ニ移のまゝ

三昧堂

西大寺

寺のまゝ

南大門

法華寺

三輪堂

三輪堂

三輪堂

例ニ移のまゝ

三輪堂

西大寺

寺のまゝ

南大門

法華寺

三輪堂

三輪堂

三輪堂

例ニ移のまゝ

三輪堂

西大寺

寺のまゝ

南大門

法華寺

三輪堂

三輪堂

三輪堂

例ニ移のまゝ

三輪堂

西大寺

寺のまゝ

南大門

法華寺

三輪堂

三輪堂

三輪堂

例ニ移のまゝ

三輪堂

西大寺

寺のまゝ

南大門

法華寺

三輪堂

三輪堂

三輪堂

例ニ移のまゝ

三輪堂

西大寺

寺のまゝ

南大門

法華寺

三輪堂

三輪堂

三輪堂

例ニ移のまゝ

三輪堂

西大寺

寺のまゝ

南大門

法華寺

三輪堂

三輪堂

中なり五日、日勅使に... 宮ノ日勅使に...

和名城上郡伯山三在寺領五百石真言新義小地坊僧正号典三山神樂院下宮山又住修上人

長谷寺 堂南向 前二初瀬川有九三雲雀山見也 天平五年五月十八日

本尊十一面觀音 元正天皇御宇 寺創山阿高崎 高崎の郡之尾の山より

十三鐘 二院あり 聖武天皇御宇 聖武天皇御宇 聖武天皇御宇

般若寺 本堂存す 文殊 十三重ノ石塔 下二埋也 天皇御宇 聖武天皇御宇

喜光寺 始ハ聖武天皇御宇 聖武天皇御宇 聖武天皇御宇

五重塔 勅武天皇御宇 聖武天皇御宇 聖武天皇御宇

招提寺 律宗 額 聖武天皇御宇 聖武天皇御宇 聖武天皇御宇

赤梅檀 釈迦 毘首羯磨 化也 漢成也 小野篁作地所也

戒壇寺 天下二四ノ内ナリ 天武天皇御宇 聖武天皇御宇 聖武天皇御宇

住吉 四所 一 天照太神 二 宇佐明神 三 底筒表筒 四 神功皇后

天照太神 宇佐明神 底筒表筒 神功皇后

天照太神 宇佐明神 底筒表筒 神功皇后

天照太神 宇佐明神 底筒表筒 神功皇后

天照太神 宇佐明神 底筒表筒 神功皇后

天照太神 宇佐明神 底筒表筒 神功皇后

天照太神 宇佐明神 底筒表筒 神功皇后

二月三日 御田極より五月六日 塙遊女来テ早苗ヲ
規式アリ御接ハ六月晦日 寫真馬ニ乗テ 縁のり
市ハ九月十三日 此明神元是高貴徳王ノ變身トシテ名ヲ佛教ニ類シ今ハ即
上皇聖王ノ自衛トシテ化ヲ神州ニ被シテ五ノリ

天王寺

石ノ華表 釋悲性立ニ類ハ小即ハ凡シ
釋迦如来持持輪ハ南極樂土東ノ中心トシテ新ニ奉リ

六時堂ノ前ノ以テ黄鐘調ノりテハ凡シ俗人示慈の指南トシ
徑盤モより石ノ更ニ其の申ヨリテハ一ハ年ヲ忌ニテ三月ニテ
七ノ一ニテハ

一 宝塔 一ノ高盤 圓ハ檀金一千兩よりハ凡シハ末代

二 龜ノ水 三 金堂 凡テ高盤ノりハ凡シハ末代

四 池ノ蛙ノり 六 金堂内陣ノ柱 在梅檀末代ノりハ

六 石ノ鳥居 西川ノ極 示浄土ノ東門ノ中心ニありトシ

七 大木 金堂 寶塔 凡テ高盤ノりハ凡シハ末代ノりハ

唐申 縁起 天王寺 御田極 縁起 縁起

天満天神 一ノ高盤 一ノ高盤 一ノ高盤 一ノ高盤

玉造福首 栗山ノりハ 五ノ高盤 一ノ高盤

新 西ノり 鐘舎 凡テ高盤ノりハ凡シハ末代ノりハ

丸岡 七ノ高盤 凡テ高盤ノりハ凡シハ末代ノりハ

生玉 五ノ高盤 凡テ高盤ノりハ凡シハ末代ノりハ

信次 五ノ高盤 凡テ高盤ノりハ凡シハ末代ノりハ

之は 西生郡 近江少人扱はるるもきふ所あり

三つは 取河持 彦太

深ききき 東常山 用山をて答上人 若梅種也

一乃これのあきとをわぬのこころのしるしあり

新おまきりのとも富士のともあつたしゆのつる念入者

金照寺 赤山 山田ノ庄 善徳大師ノ廟あり

常山禰ノ是木ノてまききし立像の観音大人ノも容者

尼崎大物若文 信盛ノ力とてつるさす 善徳ノ廟あり

神体ニおまのあきとあり 神もつと海平古と名つけり

西文 蛭見といふはさか 夷ノ命といふは 山田ノ

勝尾寺 八天ノ白檀といふ像とまききし子年親言

并に天王あり 寺ありしり

關加志 令教 土人

大文字 野山 石室の善師 二人ノ立像

如言佛の観音 寺ありしり

高田足達ノリ 佛之善徳ノ立像 善徳ノ立像

高田ノ少僧とて牛乳向林との像のたれ大川とて上流川下

流の川下 善徳大木木ノ末とて大川下流の善徳とて

山田出巻 一日ありしり 善徳ノ立像あり

高田ノ少僧とて 善徳ノ立像あり

高田ノ少僧とて 善徳ノ立像あり

高田ノ少僧とて 善徳ノ立像あり

室領 寺の... 川の... あり

○ 概列 某名 城之 杉平 沼中 守 杉山 方石 け所 又 春日 日ノ 社 方

又 本 統 寺 トテ 一 向 宗 ノ 大 寺 方 け 所 出 テ 所 産 川 と し 川 方

○ 四 百 布 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 追 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 神 戶 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 白 子 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 上 野 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 津 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 吉 出 口 又 川 方

○ 船 二 文 一 冬 橋 有 備 水 三 船 渡 也

○ 六 新 屋 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 松 坂 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 間 原 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 川 方 け 所 出 所 始 時 一 代 官 方 出 テ 川 方

○ 山田に 寺あり 内なるゆゑあたゝき臺青南向也

○ 未社百二十社あり 山田のゆゑあたゝき他方日本

○ の長史の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 天岩戸の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 二見佛 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

南無阿彌陀佛為教盛空願憐憫菩提書之

源空

須麻名ノ 上野山 福祥寺 本寺の如き寺をてらに而して仁王の如

ひつり入て若木の根の如し名 皇女 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

ひつり入て若木の根の如し名 皇女 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

ひつり入て若木の根の如し名 皇女 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

ひつり入て若木の根の如し名 皇女 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

ひつり入て若木の根の如し名 皇女 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

ひつり入て若木の根の如し名 皇女 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

○ 山田の如し 又ある毎事六月廿六日十七日

傾广亭梅

此花紅南所無也一
支於折盞之輩者
任天永紅葉之例

伐一枝者可剪

指

壽永三年二月日

右若木ノ梅ニ
并度の御書
り來こけ出の
宮ろ飛百文も
甲修方也

一谷わか山南ハ海口ニ於奥廣亭存る。此梅ノ之

木戸ト定城新シ梅ハ辰巳ノ山ノ東ニ大木ノ

新出ノ石梅
此梅ハ辰巳ノ山ノ東ニ大木ノ

揚列曾根(梅)仰り 朽桑ノ中ニ天部ノ社有南向

前ニ拜殿有彫刻ノ梅枝方社ノ中ニ天部ノ梅

今ニ朽方梅ノ中ニ天部ノ梅入御り方してしりり木ニ

木ノ邊ニサシる梅有思宮ノ中ニ梅枝十有八枝ノ花

してしりり梅有思宮ノ中ニ梅枝十有八枝ノ花

しりり梅又申有ノ梅枝十有八枝ノ花

記列ニ仰山 記列に 大石有仁主方仲ノ門邊の
此梅ハ辰巳ノ山ノ東ニ大木ノ東ニ大木ノ
前ニ拜殿有彫刻ノ梅枝方社ノ中ニ天部ノ梅
今ニ朽方梅ノ中ニ天部ノ梅入御り方してしりり木ニ
木ノ邊ニサシる梅有思宮ノ中ニ梅枝十有八枝ノ花
してしりり梅有思宮ノ中ニ梅枝十有八枝ノ花
しりり梅又申有ノ梅枝十有八枝ノ花

又... 二金堂の... 池の... 六... 二五... 南大... 八間各... 四人

南殿障子賢聖

東四間

一間

馬周 房玄齡 杜如晦 魏徵

二間

諸葛亮 張良

凌伯玉 茅五倫

三間

管仲 劉禹錫 子產 蕭何

四間

伊尹 太公望

傳說 仲山甫

西四間

一間

李勣 虞世南 杜預 張華

二間

羊祐 陳寔

楊雍 班固

三間

桓榮 鄭玄 龔武 倪寬

四間

董仲舒 賈誼

文翁 叔孫通

Handwritten text in Chinese characters, including the characters 子 (Zi) and 早 (Zao), and two circular seals. The text is written in a cursive style on aged, yellowed paper.

Vertical text on the left side of the page, possibly a title or a list of items, written in a cursive style.

Vertical text on the right side of the page, written in a cursive style.

